

令和5年度 病虫害防除技術情報 第7号

令和6年1月25日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

イチゴにおけるアザミウマ類の防除について

令和5年10月2日付で発表した技術情報第6号を受け、イチゴにおける微小害虫の発生量について追跡調査を実施したところ、花および果実にアザミウマ類が多く確認されました(表1)。

今年度は秋口から高温、乾燥傾向が続いており、九州北部地方の1ヶ月予報(1月18日福岡管区气象台発表)では、平均気温は、平年並30%、高い確率60%、降水量は少ない確率が20%、平年並40%と、今後も継続が予想されます。

気温が上昇するにつれてハウス外からの飛び込みも増加することから、被害の拡大が懸念されます。そこで、早期発見に努めて速やかに防除を実施するとともに、アザミウマ類の増殖源となる収穫残渣や圃場内・周辺の雑草を適切に処分してください。

1. 発生の状況(1月下旬 微小害虫追跡調査)

表1 イチゴ栽培圃場におけるアザミウマ類の発生調査結果(2024年1月18日~19日)

地域	調査数 (花+幼果)	アザミウマ類個体数(頭)			アザミウマ類の発生量	
		成虫	幼虫	計	発生割合(%)	発生程度
東部	50	0	0	0	0	-
中部①	50	0	0	0	0	-
中部②	50	1	8	9	18	多
北部	50	0	0	0	0	-
西部	50	3	2	5	10	多
豊肥	50	8	9	17	34	多
南部	50	2	0	2	4	少

2. 防除上の注意事項

- (1) 本虫は高温乾燥条件において発生が助長される。
- (2) 収穫残渣は、アザミウマ類の越冬源となるため、野積みせずに埋設するなど、適切に処分する。
- (3) 今年度はアザミウマ類の増殖源である雑草の発生量が多いため、圃場内および周辺の除草を徹底する。ただし、春先にハウスサイドや天窓を開ける前に除草を行うと、ハウス開口部からの飛び込みにより被害が拡大する恐れがあるため、除草後少なくとも2週間以上経過した後に開けるか、ハウス内のイチゴに対して防除を実施した後に除草を行うよう留意する。アザミウマ類は風で移動するため、特にハウスの風上側の除草を心がける。
- (4) すでに多発生が認められている圃場では、薬剤防除を複数回行い、害虫密度を低下させてから天敵を導入する。
- (5) 天敵に長期間影響を及ぼす薬剤があるため、天敵の導入にあたっては薬剤の選定に注意する。
- (6) 殺菌剤であっても天敵導入直後に薬剤散布すると影響が懸念されるため、期間を空けて散布を行う。また、防除薬剤には展着剤も含めて天敵への影響が少ないものを選択する。
- (7) 天敵に対する薬剤の影響は、日本生物防除協議会ホームページ内にある「天敵等に対する農薬の影響目安」を参照する。



ホームページアドレス <http://www.biocontrol.jp/Tenteki.html>

- (8) 受粉用ミツバチ（マルハナバチ等）に影響を及ぼす薬剤があるため、薬剤の選定には注意する。
- (9) アザミウマ類の薬剤抵抗性発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避ける。使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」の「いちご」「野菜類」の項目を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

ホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

